

《履修上の留意事項》この科目を履修する場合は、事前に指導を受けたい特定の教員に相談のうえで履修すること。

《担当者名》○下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 才川悦子 田村至 中川賀嗣 橋本竜作 榊原健一
福田真二 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 若松千裕

【概 要】

教育基本法では、大学の役割に「新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより社会の発展に寄与する」と述べられている。新たな知見の創造とは研究を意味する。

大学を卒業することは研究力を身につけ、私たちの未来に創造的に貢献できるようになることが求められている。卒業研究では、言語聴覚学の分野で多岐にわたる多様な研究がなされていることを知り、研究体験を通じて研究の方法を具体的に把握する。

【学修目標】

＜一般目標＞

言語聴覚療法の専門性を深めて研究力を身につけるために、各専門領域に関わる研究を実施でき、およびその成果を発表できる。

＜行動目標＞

1. 研究に必要な情報を収集できる。
2. 科学的文書を論理的に作成できる。
3. 論文形式等の文書が作成できる。
4. 科学的なディスカッションができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ┆ 15	言語聴覚療法研究の実践	卒業研究レポート作成は、研究体験、論文作成の体験により研究法を具体的に学ぶ科目である。各学生は、担当教員の下に、適当な研究テーマをもち、必要な研究体験をしながら、必要な情報の収集、整理をし、論文形式のレポートを期限までに書き上げる。これらを通じて、科学的な考え方、論理的思考、科学的記述法を学ぶ。レポートは、そのまま雑誌に印刷できる形で提出される。この作業の課程でみえるコミュニケーション力、行動力、持続力、集中力、情報収集力、応用力、適切な記録力、計画力、自己学習力などもいれて評価する。	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

卒業研究レポート 100%

【教科書】

各担当教員が、適宜紹介する。

【参考書】

各担当教員が、適宜紹介する。

【備考】

1. 指定された書式に従って書かれた卒業研究レポートを、提出期限までに提出しなければならない。
2. 授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示
 - ・授業に関わる連絡はmanabaさらにi-Portalを利用する。
 - ・資料の配信はmanabaまたはGoogle Classroomを利用する。
 - ・学習課題の提示はmanabaまたはGoogle Classroomを利用する。
3. 研究のデータ解析

・一部研究では、データベースの利用により解析を行う。

【学修の準備】

それぞれの担当教員の指示に従って準備を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

田村至、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕（言語聴覚士）

中川賀嗣、才川悦子（医師）

橋本竜作（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

田村至、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕：医療機関での言語聴覚士としての臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域に関する研究指導を行う。

中川賀嗣、才川悦子、橋本竜作：医療機関での実務経験を活かし、研究指導を行う